

平成 28 年 11 月 22 日

平成 28 年度産業建設常任委員会行政視察報告書

1. 日 程 平成 28 年 10 月 17 日（月）～10 月 19 日（水）
2. 視 察 先 愛知県高浜市 人口 46,892 人（4 月 1 日現在） 面積 13.11 km²
三重県尾鷲市 人口 18,948 人（4 月 1 日現在） 面積 192.71 km²
3. 視 察 事 項 高浜市 三州瓦をはじめとした地場産業の振興について
尾鷲市 観光客誘致の取り組みについて
4. 視 察 者 委 員 浅 野 一 明 委 員 長 佐 藤 俊 夫 委 員
山 田 義 栄 委 員 樋 口 博 務 委 員
安 武 秀 敏 委 員
当 局 石 附 敏 春 商 工 観 光 課 長 補 佐
随 行 石 津 敏 朗 議 会 事 務 局 主 査 計 7 名

高 浜 市

（1）高浜市の概要

高浜市は、中部圏の中核都市である名古屋市から南東へ約 25km、愛知県の中央南部三河平野の南西部に位置する。

市域は、東西 4.2km、南北 5.5 km、総面積 13.11km²で、標高約 5m の洪積台地と河川流域及び海岸一帯の沖積層の標高約 2m の低地よりなっている。市の西部は衣浦湾に接し、海岸線は延長 5.4km におよび、衣浦大橋によって知多半島と結ばれている。古くから渡船場として発達し、港湾都市としての機能を持つ。

「三州瓦」の産地であり、隣接する碧南市と共に日本最大の瓦の生産地である他、輸送機器関連産業の伸びも著しい。愛知県内 54 市町村のうち、普通交付税不交付団体は平成 27 年度が 14 自治体、平成 28 年度が 17 自治体となっているところ、高浜市も平成 28 年度の新たな不交付団体のひとつに加わっている。

（2）三州瓦をはじめとした地場産業の振興について

（ア）三州瓦の販路拡大に対しての市としての関わり

地域産業グループ：商工担当 3 名、農務担当 3 名、グループリーダー1 名 計 7 名
所 管：労働・観光・商工・農務・土地改良区・農業委員会業務
支 援 方 法：各事業の実施主体に対して補助金としての支援および国・県の
制度活用の調整役

(イ) 各団体との具体的な関わり

①愛知県陶器瓦工業組合

- ・商品・製品等実態調査事業（平成 27 年度事業費 611,700 円 補助額 61,000 円）
JIS 規格に基づき、製品と原材料の実態を調査。品質向上を目指す。
- ・国内市場瓦離れ対策事業（平成 27 年度事業費 5,966,676 円 補助額 500,000 円）
震災の影響による瓦離れ対策として、全国の主要 6 都市で設計士を対象としたセミナーを開催。
- ・震災復興住宅支援事業（平成 27 年度事業費 15,602,160 円 補助額 1,670,160 円）
宮城県岩沼市で三州瓦を使用した復興住宅に補助金を支払い、瓦のマイナスイメージを払拭し、販路拡大を図った。
- ・第 10 回飾り瓦コンクール事業（平成 27 年度事業費 2,900,430 円 補助額 600,000 円）
伝統文化維持のための開催であるが、鬼師相互の技術の練磨など全国の飾り瓦製造業および地域産業の振興の礎の維持に努めている。

②三州瓦工業協同組合

- ・組合活動費補助（平成 27 年度事業費 1,270,734 円 補助額 250,000 円）
高浜市商工会作成によるキャッチコピーとロゴマークを利用した PR 活動や、「文化財保存・復元技術展（7/22～7/24）」「三河の窯業展（3/8～3/11）」にて鬼瓦作成実演や三州瓦工場バス見学ツアー協力など。

③三河陶器協同組合

- ・見本帳作成事業（平成 27 年度事業費 1,460,160 円 補助額 130,000 円）
会員事業所が製造している商品のカタログを組合にて 3,400 部作成

④その他

- ・あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センターの事業への補助（平成 27 年度補助額 50,000 円）や、愛知県鬼瓦技能評価認定事業への補助（平成 27 年度補助額 90,000 円）なども実施している。

(ウ) 高浜市が直接実施する施策

- 三州瓦屋根工事等奨励補助金（屋根工事の25%、和瓦で上限25万円、それ以外で上限15万円の補助）
平成8年より実施。平成27年度末で2,280件、336,361,000円の補助（太陽光パネル同時設置の補助金も含む）
- ふるさと名物応援宣言
中小企業庁がすすめる地域ブランド創出の取り組みとして三州瓦を「ふるさと名物」に特定し、販路拡大や商品開発に対する支援策の紹介を行っている。
- 伝統産業品指定への取り組み
経済産業省実施による「伝統的工芸品産業支援補助事業」に対して「三州瓦」を採択してもらうため、市が窓口として支援。
- 「みんなで三州瓦をひろめよう条例」
三州瓦が郷土の産業であることに誇りを持ち、三州瓦の積極的な利用に努めることにより、高浜市の窯業及び伝統文化に対する理解の増進並びに伝統技術の継承を図り、三州瓦の振興を通じた地域経済及び地域社会の活性化を推進する（前文）
- その他
産業観光（鬼みちまつりなど）、かわら美術館、高浜港駅舎建て替え等々。

(エ) 所感

工業出荷額の面では主要産業が機械産業等に移る中、伝統的な瓦産業がこの町のものづくりの原点であるとして、その振興、育成を図る姿には感銘を覚えた。連綿と受け継がれてきた伝統の精神が、現在の産業をも支えているように思える。

伝統産業は全国的に見ても厳しい状況にあるが、生産高だけで重要性を判断すべきではなく、地域の精神性の維持やイメージづくりにも大いに価値のあるものと感じた。

尾鷲市

(1) 尾鷲市の概要

尾鷲市は、三重県南部に位置し大台山系を背に東側は太平洋（熊野灘）に臨み、人口は約1万9千人、面積は約190km²を有している。

昭和29年6月、尾鷲町、九鬼村、北輪内村、南輪内村、須賀利村の1町4村が合併し、現在の尾鷲市となった。人口のピークは、昭和35年の34,534人。過疎・高齢化が急速に進んでおり、65歳以上の人口が40%を超えている。

漁業・林業を中心とした第一次産業で栄えてきたが、これらも漁獲量の減少や、輸入木材の流入、ハウスメーカー住宅の増加などにより厳しい状況が続いている。

(2) 地域資源を活用した観光交流・特産品振興によるまちづくりについて

尾鷲の地域資源

①世界遺産「熊野古道」

熊野古道「伊勢路」（紀伊山地の霊場と参詣道）が平成 16 年に世界遺産登録を受けたことを記念し、平成 19 年に三重県立熊野古道センターが建設された。樹齢 60～80 年の尾鷲ヒノキ 6,549 本が使用されている。

②みえ尾鷲海洋深層水

平成 18 年から取水開始。廃校の校舎を加工工場に利用するという工夫のほか、様々な商品開発も行われている。

③夢古道おわせ・夢古道の湯

平成 19 年オープン「夢古道おわせ」（尾鷲市地場特産品情報交流センター）は、尾鷲市の特産品と食の拠点として好評。地元の旬を活かした「お母ちゃんのランチバイキング」などの取り組みが行われている。平成 20 年オープンの「みえ尾鷲海洋深層水」の温浴施設「夢古道の湯」もあり地域資源が最大限に生かされた、食事、お風呂、買い物を楽しむことができる施設。

④「食」の魅力

・尾鷲市における「食」まちづくりの取り組み

基本理念「食でつなぐ伝統と未来 おわせ人の笑顔と活力あるまちづくり」

「食」で攻める（食のまち尾鷲としての地域ブランド化を目指して）

生産基盤の強化の他、食の情報発信、食をテーマとした観光など。

「食」で守る（食のまち尾鷲ならではの食育による人づくり）

ライフステージに応じた食育により、健康、教育、文化、伝統を守る。

(3) 所感

尾鷲市には熊野古道という有力な観光資源があるが、そのみに頼ることなく、積極的にまちの魅力の発信に努められていた。特に「食」に関しては、行政だけではなく産業界や地域の住民方の参加も積極的であり、自らのまちへの愛着がそのようにさせるのであらうと思われた。人口の減少などが課題として語られていたが、それを感じさせない活気があった。

まちの縮小だけを悲観するのではなく、魅力を再発見して行くことで、まちの活性化につながることもできるのだと感じられた。